

議 事 録

会 議 名	令和7年度 第2回 教育課程編成委員会
日 時	令和8年2月19日(木) 15:00～17:00
場 所	中央工学校OSAKA 1号館 31・32教室・学生ラウンジ
参 加 者	<p>[委 員] (敬称略) 金沢 ちかこ、宮田 哲、小坂田 昌広、田鍋 稔 田中 由之、岩尾 美穂</p> <p>[関係職員] 中村 聖吾、原 充介、中島 征治、太田 育子 篠崎 潤一、平上 秀明、豊田 昌代、吉田 知恵、北村 昇大朗 檜崎 悟志(司会)、諸岡 邦行(写真)、谷村 友紀奈(記録)</p> <p>[オブザーバー] 松田 正之</p>
内 容	<p>1. 令和7年度 第2回 教育課程編成委員会</p> <p>司会の檜崎 悟志職員が開会の宣言を行い、教育課程編成委員会が開会した。</p> <p>(ア) 学校長挨拶</p> <p>中村校長より松田専務理事の紹介、第1回教育課程編成委員会以降の本校の学校運営について報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none">・11月4日(火)から7日(金)に研究科が国内建築研修を実施した。国立競技場スタジアム、迎賓館 赤坂離宮等を見学した。・11月10日(月)から14日(金)に教育懇談会を実施した。懇談を希望する保護者に対して、各クラス担任が成績・進路状況などを説明や相談を行った。・11月21日(金)にフィットネス 21 東淀川体育館にてスポーツ大会を実施した。各クラス男女別対抗でのバレーボールを行った。・1月22日(木)から1月27日(火)に後期定期試験を実施。・2月5日(木)から2月10日(火)に後期追試験を実施。・2月17日(火)から2月18日(水)に卒業成果・制作発表会を実施した。17日(火)については、建築系3学科の1年生と研

究科が学習成果の発表を行った。また 18 日（水）については、建築系 3 学科の 2 年生が卒業制作の発表を行った。会場とオンライン視聴の併用により、在校生や保護者、企業関係者などに発表を視聴いただいた。

- ・令和 7 年度二級建築士受験結果が 12 月 2 日（火）に発表。研究科の二級建築士の資格試験の合格率が全国平均を上回ることが出来た。
- ・新任職員 北村 昇大朗職員の紹介

(イ) 配布資料の確認

檜崎 悟志職員から、本日の配布物の確認を行った。

(ウ) 令和 7 年度教育内容について

建築系職員より令和 7 年度の建築系の教育について、配布資料に沿って説明があった。

太田 育子主任より

- ・軽井沢合宿研修：4 月 22 日（火）から 24 日（木）、4 月 24 日（木）から 26 日（土）の日程で 2 回分けて 1 年生を対象に実施した。富岡製糸場、群馬音楽センター、千住博博物館等を見学した。フォローアップ研修ではコロナ禍に行った、マナー研修を万博記念公園迎賓館で引き続き実施した。

篠崎 潤一職員より

- ・建築施工実習：9 月 29 日（月）から 10 月 3 日（金）に富士教育訓練センターで実施。事前教育として 9 月 5 日（金）にガイダンス、9 月 30 日（火）に足場特別教育を実施した。

太田 育子主任より

- ・秋の文化イベント：昨年度に引き続き、「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」へ参加で実施した。イベントへの参加と並行して学校内で学生作品展覧会を実施。

篠崎 潤一職員より

- ・スポーツ大会：昨年度同様に各学科男女別のバレーボールトーナメントを実施。

平上 秀明 職員より

- ・研究科の二級建築士の資格試験の資格試験結果として、全国平均を上回ることが出来た。

豊田 昌代職員より

- ・国内研修：11月4日（月）～11月7日（金）に実施。KITTE・JPタワー学術文化総合ミュージアム・迎賓館赤坂離宮など東京にて4日間充実した建築物等の見学を行った。12月17日（水）に実施した校内発表会には校長にもお越しいただき報告を行った。

- ・卒業成果・制作発表会について

2月18日（水）に建築系の各学科2年生の内、上位21名（うち3名欠席）が発表を行った。発表に対して学内外の審査員8名が審査を行い入賞者6名を決定した。

- ・入賞者6名の学生作品は、後日パンフレットにまとめ配布予定。

太田 育子主任より

- ・資格試験対策について

今年度より希望者による講座申込制へ移行し、資格に応じたスケジュール設定と集中的なサポートが可能となり、新講座の開講や格安な受講料によって学生の負担軽減にもつながっている。

結果：受講者数は減少したが、学習意欲が高く保たれ、合格率が向上している。

【建築系の教育についてのまとめ】

- ・建築学科1年生をモデルにAI特別授業を実施し、学習・制作への活用方法と適切な向き合い方を学ぶ機会を提供した結果、AIを主体的に活用する姿勢の育成につながったため、今後は各学科1年生へ展開し、AIリテラシーと実践的活用指導の充実を図る方針である。
- ・今後は学習成果の質的向上を目指した具体的方策を実施し、資格取得率や、コンペ受賞率を向上させたい。

【進路について】

中島 征治室長より配布資料の説明があった。

(エ) 令和7年度卒業成果・制作発表会発表作品の見学

平上 秀明職員より建築学科の作品説明、引き続き、豊田 昌代職員より住宅デザイン科の作品説明、太田 育子主任よりインテリアデザイン科の作品説明を行った。

(オ) 意見交換

【金沢 ちかこ委員】

- ・曲線を効果的に用いたデザインが多く、第一印象も良い。テーマが明確でプロデュース的視点も感じられ、コアにとどまらない広がりのある提案が表現されていた点を評価したい。一方で、インテリアの見せ方にはやや弱さがあるため、より伝わる表現を意識するとさらに良くなる。建築学科・住宅デザイン科ともに新しいソフトをうまく使いこなすことが大事になってくる。

【宮田 哲委員】

- ・思いどおりに形にできない場面が多い中でも、コンセプトを明確にし、考えたことを相手に理解してもらえるよう上手に伝えるプレゼン力を高めることが重要である。
- ・卒業成果・制作発表会において学校外の意見や質問を取り入れることで、企業が求める人材像の理解につながるため、外部の視点を取り入れることが重要である。
- ・就職のスケジュールについて、就活に気を取られて、教育の質が下がるのではないかと、その改善が必要なのではないかと。

【小坂田 昌広委員】

- ・ゴールド・シルバーアワードを受賞された方の嬉しさ、苦しさがよく感じれた。
- ・発表ではプレゼン力に長けたインテリアデザイン科の学生が有利に見受けられる一方、建築学科の施工・設備分野は内容の特性上、魅力をアピールしにくい傾向があると感じた。
- ・レジュメなどの相手の興味を引く工夫が大事。
- ・自らの力、デザイン力・考える力を身に付けていくことが大事で企業も採用のために求めている力である。

【田鍋 稔委員】

- ・他校の卒業制作発表会に行く機会がある。そこでは外部学校の先生・外部講師がコメントする。初めての人に伝え説明することの重要性や、外部の意見で初めて腑に落ちる気づきの大切さを感じた。
- ・熱意が伝わる作品は出来が良く、卒業設計ではどのような道具を用いても良いが、想像し考える姿勢とその熱意を相手に伝えられることが重要である。
- ・新卒採用の枠では現スケジュール上、就職活動は厳しい状況であるが、新卒に限定せず進路を検討する必要がある。
また、就職活動を理由に学業や卒業制作がおろそかになることのないよう、指導が必要である。
- ・外部講師からの意見は重要であり次回は審査員として招集してほしい。
- ・研修として基礎から建築されていく建物の過程を見学すると良いのではないか。

【田中 由之委員】

- ・二級建築士の合格率について専門学校としての数値が出ていることは評価されることだと思う。この学校の強みになるのではないかと考える。
- ・専修学校の法律の変化について詳しく聞きたい。

中村校長・松田専務理事より

単位制の導入により、制度が大学寄りになっている。編入など進路の幅を広げ、専門学校と大学との互換性を持たせる狙いがある。また、第三者評価が努力義務となる点も含め、専門学校の教育の質を高めることが目的と考えられる。

- ・卒業設計について、発表を行っていない約7割の学生が、どの程度こだわりを持って制作できているのか知りたい。

・太田主任より（インテリアデザイン科）

例年は提出すべきものを出すだけで精いっぱい学生も見受けられるが、今年に関しては、誰が選ばれてもおかしくないようなクオリティの作品ができていた。

・豊田職員より（住宅デザイン科）

選抜された学生は、卒業成果・制作展で発表されたレベルの作品を制作できている。一方で、自ら考えることが苦手であ

アイデアを出せない学生も少数であるが、いるため苦慮している。提出図面数が多く負担を感じる学生も多いが、発表を行った学生は楽しみながら制作に取り組んでおり、今回のプレゼンテーションではその熱意が評価につながったと考えられる。一方で、指示された内容をただこなすだけの学生もおり、主体的に制作へ取り組ませるための指導方法が今後の課題である。

・平上職員より

建築設計コースについては、作品・取り組み姿勢に大きなばらつきはなく、概ね安定している。特に時間と熱意をかけた学生の作品が、卒業成果・制作展に展示されている。

施工管理コースについては、良くできた学生は3割。学生は講師の指示に頼る場面が多くあった。

建築設備コースについては、全体的に完成度は高い。展示作品は図面量も多く特に優れているが、他の学生も就職先で必要となる知識を身につけ、避難計算・防災設備計画等に取り組んだ学生もいた。

- ・法規、植栽計画などの一連の資料がそろっている点は、大学の卒業制作ではあまり見られない部分までカバーできており、専門学校ならではの成果であると感じる。

【岩尾 美穂委員】

- ・インテリアデザイン科の作品は、ボードの構成や手描きパースによる視覚的な訴求力が高く、模型からも制作者の人となりや熱意が伝わってきた。データによる裏付けもあり、図面やビジュアルの完成度に加えて、作品に込めた思いが要所で伝わるバランスの良い内容であった。
- ・コンセプトが一言二言で伝わるのが最も重要であり、そこができていないかどうかで、その後のプレゼンテーションを聞いてもらえるかが決まると感じた。また、作品にかかる思いの強さによって完成度に差が出たのではないかと思う。伝える力にはセンスも必要だが、経験や訓練によって伸ばせる部分も大きく、プレゼンテーションの機会を増やすことで成長につながるのではないか。

(カ) 中央工学校近況について

松田専務理事より説明があった。

東京校では、アジア（ベトナム）プロジェクトを実施しており、現地の日本語学校および人材派遣会社と連携し、現地市場の調査を行いながら早期実現に向けた取り組みを進めている。本プロジェクトでは、ベトナムの大学卒業者を対象に本校へ受け入れ、1年間日本語および建築を日本語で学習させた後、人材派遣企業を通じて企業へ派遣し、3年間の就労を経て正社員化することを前提としたプロジェクトとしている。なお、在学中の学費については、対象者本人・受け入れ企業・人材派遣企業の三者で負担する形で進めている。

また、あわせて普通科高校出身者を採用する企業向けに、採用した高校生を3か月で工業高校レベルまで育成するプロジェクトの構築も進めている。

2. 閉会の辞

檜崎 悟志職員が閉会の宣言を行い、教育課程編成委員会が閉会した。

【配付資料一覧】

- ・令和7年度 第2回教育課程編成委員会 次第
- ・令和7年度 建築系の教育について
- ・令和9年度 入学者用学校案内書
- ・卒業成果・制作発表会スケジュール
- ・学校教育法改正概要
- ・進路スケジュール
- ・採用のお願い

以上